

「第三者災害は絶対に避けるべきことで、その地域社会で仕事をさせていただいているという考え方を持つことが大切」

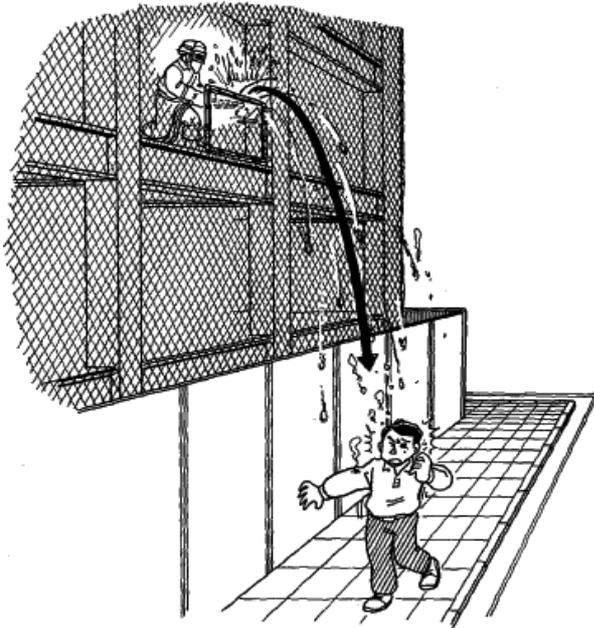
建設現場で働く作業員が労働災害に遭った時は、労働者災害補償保険（労災保険）が適用されます。しかし、現場見学者、注文者、設計事務所監理者、警備員、あるいは通行人や近隣住民に被害を及ぼした時は労災は適用されません。学生の見学等は学校保険が、注文者や設計事務所監理者、警備員等は所属する会社の労災保険が適用されます。自社役員が現場で被災した場合は、本社または支店の労災保険が適用されます。

通行人や近隣住民など第三者への補償等は、建設工事保険の加入で事故・災害に対応することができます。

厚生労働省の労働災害統計表は「労働者」が対象ですから第三者災害の統計はなく、その実態は不明です。しかし、第三者災害がニュースで大々的に報道され驚かされることがあります。

第三者災害の発生は社会から建設業と当該企業の信頼を失うこととなります。

① 工事中のビル3階から ガス溶断の火花が 通行人に落下



被災状況

市街地のビル工事現場で、外周鉄鋼柱の仮設金物の撤去のためアセチレンガス溶断を行っていたところ、火花が歩道の通行者に降りかかり衣服に焼け跡ができた。

原因と対策

切断箇所は板で火花落下養生をしていたが、アセチレンガス溶断は酸素の勢いが強く、火花は火花は養生板に勢いよく当たり跳ね返って外に落下しました。火花の落下地点に発泡スチロール等の可燃物があれば火災が発生してました。溶接溶断の火花による火災発生は多いのです。

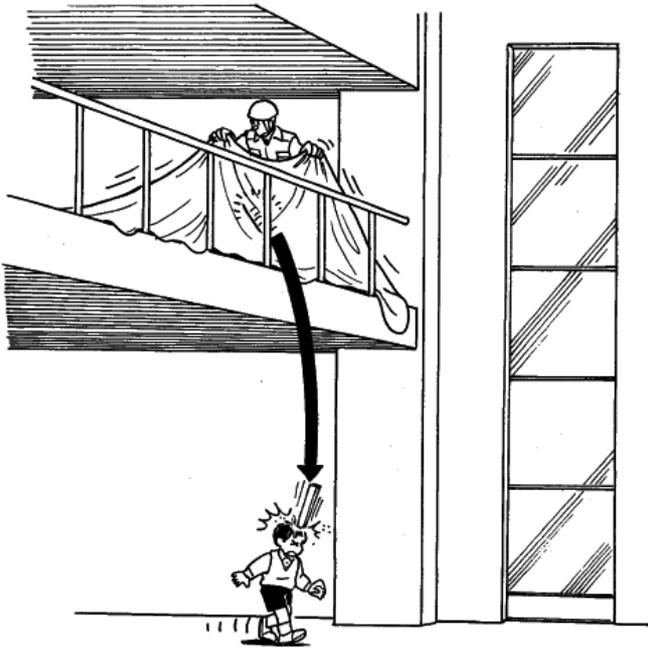
対策として、高層ビルは施工計画段階で外周鉄骨等の仮設物はガス溶断、溶接を使わない工法を計画します。また、外周には手すりが見えず、ここにも現場の安全上の不備があります。

建築工事現場には地盤面から高さ1.8m以上の板塀、またはこれに類する仮囲いを設けなければならない規定があります。（建築基準法第90条、同施行令136条の2の16）

工事部分が、環境線からの水平距離が5m以内、かつ地盤面からの高さが7m以内で、周辺に危害を生ずる恐れがあるときは、落下物による危害防止のため、鉄網（落下物に対し十分な強度を有すること）で覆うか、同等以上の防護措置を講ずることが必要です。

（ヒューマンエラー、危険軽視・安易・慣れ・省略・能率本能）

② 改修工事の清掃時に 残材が落下し 子供に当たった



被災状況

ホール2階の吹抜け部の手摺取付け工事の後、床養生シートを片付けていたところ、シート上の残材が手摺の間から落下。下を歩いていた子供に当たり顔に裂傷を負った。

原因と対策

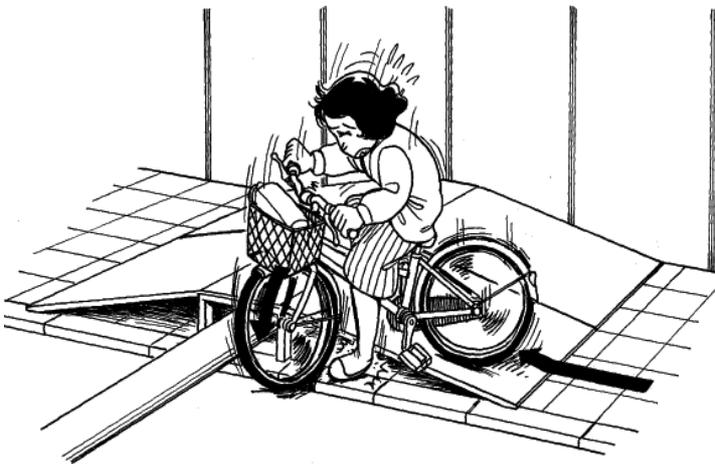
居住者が生活している状態での工事であるため、十分な注意をしていたにもかかわらず、災害が発生しました。手すりを取り付けていたのですから、作業箇所の下部は当然、立入禁止措置をとるべきでした。

最近では集合住宅の改修工事を多く見受けます。居住者に子供が多い現場では、子供の行動が容易に把握できないため、居住者と保護者への協力要請をはじめ、警備員の配置の工夫、安全通路

の設定、子供あての立入禁止表示や音声での警告装置など、特別の工夫が必要です。表示やバリエーションだけでなく、容易に入れないようなネットで囲むなど物理的に阻止します。

(ヒューマンエラー・教育不足・危険軽視・慣れ・省略本能)

③ 歩道のコンクリート圧送管防護スロープで 自転車が転倒



被災状況

車道に停めたコンクリートポンプ車の配置を歩道に渡す際に、防護用カバー（スロープ）を設置した。自転車で通行中の女性（30歳）が登り切れず、スロープ途中で止まった拍子にバランスを崩し、支えた左足首を捻挫した。

原因と対策

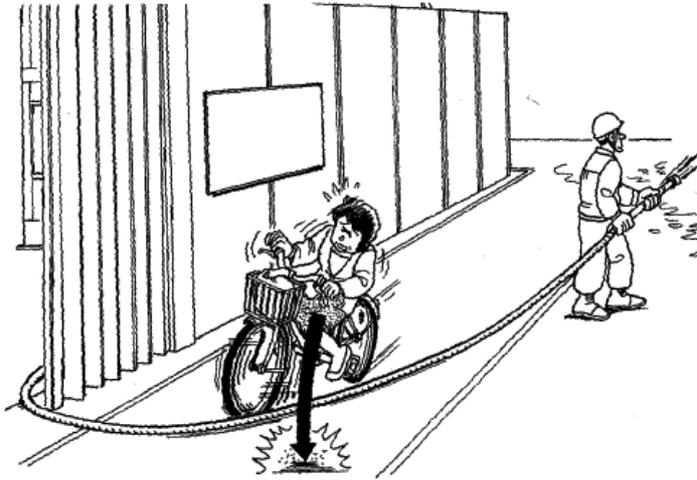
スロープは高さ30cm、水平距離110cmで、1/3.7の勾配でした。この斜路の勾配は歩いて通過するにもかなりきつく、女性が自転車に乗ったまま越えるのは難しい勾配です。

勾配を緩くするか、警備員を配置し降車のお願いや手助けが必要でした。

バリアフリー新法（平成18年12月施行）では、斜路の勾配は1/12以下、滑りにくい材質、幅は80cm以上等の規定があります。

市街地での建設工事は、作業の都合で道路占有や道路使用などが避けられませんが、子供や高齢者、障害者の通行に十分配慮した計画が必要です。

④ 歩道に這わせたホースに 自転車が横滑りして 転倒



被災状況

工事現場の出入り口で、作業員がホースで道路を洗浄中、歩道を通行中の自転車がホースで横滑りし、女性（61歳）が転倒し負傷した。

原因と対策

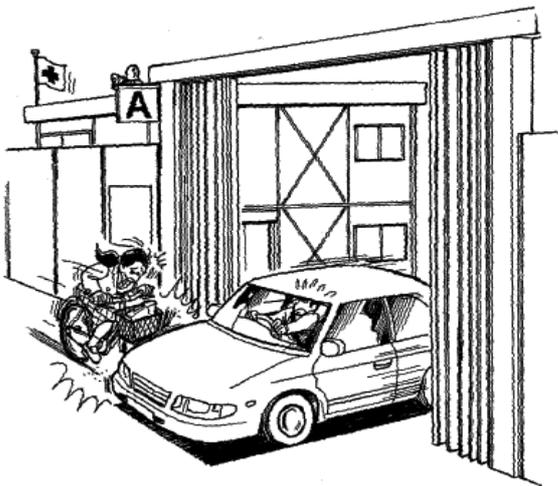
ハイウォッシャーのホース（太さ22mm）が歩道を斜めに横切っていました。ハイウォッシャーのホースは高水圧に耐えるため硬く、細い自転車のタイヤで乗り越えるには、ホースと直角方向から加速して乗り越える必要があります。

女性は、散水で濡れた路面に気を取られ、スピードが遅くなりホースを乗り越えず、ハンドルを取られたものと思われます。歩道を一時的にホースが横断するときは、監視人を配置することや幅広いゴム板で覆うなどして歩行者や自転車への配慮が必要です。

道路の散水洗浄は通行者にとっては濡れた足元に気を配り迷惑なことです。路面の散水洗浄は最小限にしましょう。また、作業員や警備員には、場外は「通行者最優先」の方針を明確に指示します。

（ヒューマンエラー・教育不足・慣れ・安易）

⑤ 現場ゲートから 乗用車で退出する際に 自転車に接触



被災状況

作業員が乗用車で帰宅しようとして、ゲートから退出する際に自転車に接触。女子学生が打撲傷を負った。

原因と対策

警備員が定時で勤務を終了し、ゲートは誘導員のいない状態でした。作業員は帰宅を急ぎ、ゲートで左右の確認を怠り車を発進させ女子学生に接触したと思われます。作業終了時や退出時はヒューマンエラーの発生が多い時間帯

です。警備員の勤務時間外でのゲート管理は難しいことですが、ゲートでの車両事故の多くは時間外に発生しています。夜間のクレーン等大型車両の出入りは運転者だけでは無理ですから、警備員の残業を手配します。現場条件に合った「時間外退出入のルール」をつくり、新規入場時や朝礼等で繰り返し周知します。また、ゲート周辺の照明は特に明るくし、早目の時間から点灯するとともに、ゲート出入り口には警告灯の点滅や音声での警告装置等を設置します。

（ヒューマンエラー・危険軽視・安易・省略本能）